

「地震・防災技術に関する技術交流会」を開催しました

2020年2月10日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、「地震・防災技術に関する技術交流会」を下記により開催いたしましたのでお知らせします。

鉄道総研では各技術分野について、実用的な成果をパネルや製品の展示を用いて紹介するとともに、参加者の皆様からご意見を伺い今後のマーケティングの参考とするため、各技術分野における交流会を開催しております。このたび地震対策技術と気象災害対策技術に関して、去る2020年1月30日に東京都千代田区内の日本工業倶楽部会館において「地震・防災技術に関する技術交流会」を開催し、鉄道事業者ならびに鉄道関連メーカーを中心に78社、127名の方々にご参加いただきました。参加者の皆様には展示パネルや開発品などをご覧いただきながら、説明者との間で技術的な質疑や今後の展開等に関する意見交換が行われました。地震対策技術では地震の発生前から発生後のシームレスな地震対策に関して、気象災害対策技術では橋脚基礎の洗掘モニタリングの導入などに関して活発な意見交換が行われました。

【今回のポイント】

鉄道総研の約270件ある研究開発テーマの半分は安全性の向上に関するものです。特に近年では大規模自然災害に対する強靱化に向けた多くの研究開発テーマを実施しています。今回、これらのテーマの成果の中から、地震対策技術については、情報を活用した早期運転再開を支援する技術を中心に、鉄道用地震被害推定情報配信システム（DISER）^{ダイザー}など4件のパネル展示を、気象災害対策技術については、激甚化する雨、風、雪の各ハザード評価手法や、老朽のり面のリニューアル工法など5件のパネル展示を行いました。

1. 開催日時：2020年1月30日（木）13時00分から17時00分
2. 場 所：日本工業倶楽部会館 中ホール （東京都千代田区丸の内）
3. 展示件名：

【地震対策技術】

- ・ 鉄道地震被害推定情報配信システム（DISER）による沿線情報の提供
- ・ 津波浸水データベースを利用した津波ハザード評価と早期津波予測
- ・ 脈状地盤改良工法による液状化対策
- ・ 高所・狭あい箇所の地震後点検を支援する変位センサ

【気象災害対策技術】

- ・ 融雪災害危険度判定システムの開発
- ・ 車両耐力と自然風外力の評価に基づいた強風対策の考え方
- ・ 常時微動を用いた橋脚安定性モニタリング手法
- ・ 老朽化吹付工の補修・補強工法
- ・ 局地的短時間強雨に対する減災システム



成果展示：鉄道地震被害推定情報配信システム（DISER）による沿線情報の提供



成果展示：局地的短時間強雨に対する減災システム